

校長室より～「山吹の風」 No.14 R5.7.21～

夏の季語で「夕立（ゆだち）」「白雨（はくう）」「驟雨（しゅうう）」があります。このところ夕方になると雷鳴があちこちで轟くようになりました。

（俳人の飯島晴子の作品に「さつきから夕立の端にみるらしき」という句があります）  
いよいよ夏本番ですね。

さて、先日茶道部の皆さんのお手前をいただく機会がありました。

お菓子は「朝顔」という名の生菓子。朝顔を見立てた紫色と白色の形が何ともきれいなのです。そしてかわいらしい蟹の模様のガラスの器でいただく薄茶。茶道部員のお心遣いが伝わる優しいお味でした。

部長と副部長に茶道をやっていてよかったことをお聞きしました。

「普段は目を向けない小さなことに目を向ける機会がもてる」  
「一つ一つの動作を丁寧にするようになる」  
「日々の忙しさの中において気持ちを切りかえられる」

との言葉に「なるほど」と感心しました。

「忙中閑あり」(ぼうちゅうかんあり)一心のゆとりを大切に、この夏をお過ごし下さい。



ふろてまえ  
風炉手前日はゆつくりと傾ぐなり

かし  
幸恵

